

城北川の水面・川岸・上空にわけて記述する

まず城北川の水面。この川の始まりを取材しながら、「城北川で泳いだ」という話を聞いた。

次の、次々世代の子どもたちの遊泳場や河川公園になるよう、アクア技術やバイオ技術を駆使して清流をつくろう。泳げる川の提案である。

城北川の左右兩岸を何度も歩いてみたが、一部の遊歩道は暗く、汚れた道に遭遇した。とくに旭区右岸は、少しレンガ舗装が遅れ、自転車が遊歩道に放置、大型ゴミやポイ捨てゴミもあった。

城東区の「城北川愛護運動」の話聞いた。区民1人ひとりが、美しく、一級河川としてブランド・リバー

づくりに懸命だ。菜の花や桜の木の植樹、青少年の河川クルーズ、3月早春には「城北川フェスティバル」を開催。『ホテルのとびかう川にしよう』と、みんなで話し合っているそうだ。

城北川の川岸には18カ所の親水護岸がある(平成21年(2009)10月現在)。大阪市建設局が工夫した新しい「リバー・ステージ」は、釣り場として、恋人たちの語らいの場、読書やウォーキングの休憩場としても最適である。この親水護岸を、会合や集合場所として、もっと多目的に活用したいものだ。

城北川遊歩道は、樹木が立ち並ぶ緑道

城北公園事務所が管理(旭・都島区)している。山茶花・楓・寒椿・・・その数、合わせて820本(1.5メートル以上の樹木)。

菫橋右岸の遊歩道には、樹齢数十年の梅檀や榎の木などの銘木が、風を受けて毅然と立っている。旭区民センター横には、ソメイヨシノの桜小公園。香蘭橋から西中宮橋の川岸は、約90本の楓の木。

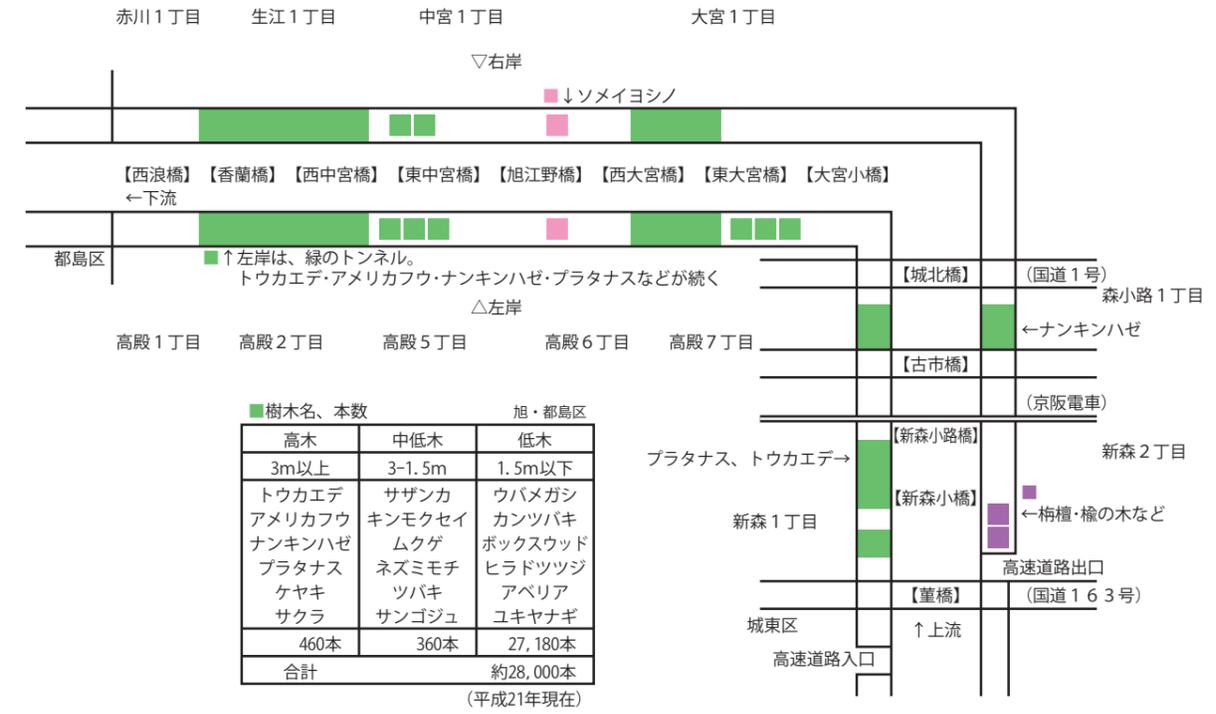
とくに城北川左岸は、緑のトンネルが続いており、格好のウォーキングロードである。・・・しかし城北川は、

旭区内に入ったとたんに青い空がなくなり、暗い気持ちになってしまう。

阪神高速道路が上空を併走しているからだ。走行中の自動車がドスンという衝撃音を響かせて、すでに40年以上が過ぎている。

私たち市民の夢を乗せて浮かんでいる、あの青い空はどこへ消えたのだろうか。

「城北川」旭区樹木図
全長5.6km 旭区2.2km



写真■緑のトンネル-樹木が生い茂る遊歩道-右岸
(左から順に菫橋・東大宮橋・旭区民センター付近で撮影)



写真■緑のトンネル-樹木が生い茂る遊歩道-左岸
(左から順に香蘭橋・西大宮橋・新森小橋付近で撮影)

城北川は、私たち大阪市の、旭区の、永遠の財産である。みんなで集まり、知恵をだし、こころを寄せあって、汗を流して創り直そう。

次の世代にプレゼントできる、おしゃれな河川を相続しよう。
城北川は、黙って、静かにそれを待っている。

流れ続ける、エピソード(城北川の回顧)



写真■ランニング・コース標識
(1,000メートル~2,000メートルまで全6コース)

30才代の「健康マラソン」(昭和57年(1982)当時)「東雲に空染まる頃、トレーニングウェアに身を包み、近くの城北運河沿いのランニングコースをジョギング。

『お早よう』『お早ようさん』すれ違うたびに挨拶をかわす。白髪のお年寄りから夫婦あるいは親子、若い男女の青年が、それぞれ自分のペースに併せて健康マラソンを楽しんでおり、今やランニングコースも一つの社交場となりつつあることは喜ばしい限りである。

ただ、昨今のジョギングブームを反映して、健康マラソン・健康ジョギング大会が各地で開催され、少なからず記録順位で賞を出して表彰しているが(中略)健康マラソンを志す人は、真の目的を認識し、他人との競争心をあおり無理なランニングをすることのないよう心掛けたいものだ(旭区新森在住・原田禎文氏寄稿。社内報誌「OMM」より)